



ペルーの情報通信事情

在ペルー日本大使館 経済・経済協力班 二等書記官 こばやし しんいち 小林 信一

1. なじみはあるけど遠い国

ペルーは南半球に位置し、日本との時差は14時間あります。首都はリマ、太平洋に面した人口約850万人の大都市ですが、たまに、リマはもっと山の中にあるのかと思っていたよ、と言われる方もいます。日本では、世界遺産マチュピチュやアンデスのfolklore「コンドルは飛んでいく」の本場といった程度のイメージでしょうか。

本稿では、ペルーの情報通信事情について御紹介しますが、その前に、そもそもペルーとはどのような国なのかを御説明したいと思います。

ペルーは、南米大陸の太平洋側に位置しており、最北端は赤道直下の南緯0度01分48秒、最南端は南緯18度21分3秒です。また、東西は西経69度から西経81度に広がっていて、エクアドル、コロンビア、ブラジル、ボリビア、チリの5か国に囲まれています。

面積は128万5,000平方キロメートルで日本の約3.4倍ありますが、人口は3,081万人（2014年1月推定）であり、都市や農地以外は、砂漠や山岳地、熱帯雨林など、人のいない広大な土地が広がります。首都リマには約850万人が（2013年1月）居住していますが、隣接して都市圏を形成するカヤ

オ市を含めると更に多くなり、全人口の約3分の1がリマ首都圏に集中しています。

首都リマは南緯12度の太平洋岸（標高0～約200メートル）にありますが、強力な寒流であるフンボルト海流が沖合を流れている影響で暑くはなく、年間を通じて温暖で、夏期（11月～4月）の最高気温が30℃前後、冬期（5月～10月）の最低気温が10℃前後、年平均では22℃前後です。常夏のタイ・バンコクが北緯13度に位置することを考えると、不思議な感じがします。ただし、晴れた日の紫外線は強烈です。また、リマは海流の影響で、湿度が一年を通じて著しく高く（冬期の最高湿度は99%、年平均では86%）、実際の気温より肌寒く感じますし、服にカビが生えることもあって、除湿機が欠かせません。しかし、雨は極めて少なく、冬期にガラアと呼ばれる霧雨が主として朝晩に降る程度です。雨が降らないため、リマ市内では傘を売っているところを見たことがありません。私もリマで生活し始めてからは、天気予報を見なくなりました。

太平洋側から少し内陸に入ると、南米大陸を南北に伸びるアンデス山脈が国土を貫いており、ペルーを地理的、文化的に分けています。アンデス山脈より西側の太平洋側に面した地域はコスタと呼ばれる海岸地帯で、ほとんどが砂漠です。また、アンデスの山岳地域はシエラと呼ばれ、いかにもペルーらしい高地での素朴な暮らしが営まれています。アンデス山脈にあるペルー最高峰のワスカラン山は高さ6768mもあります。近くのワラスという街からは、6000m級の高峰が連なった景色を見ることができ壮観です。なお、シエラは、人が住む街でも普通に標高3000m以上あり、国道を少し走ると富士山より高い標高4000m超の地点が普通に現れますので、高山病に注意が必要です。アンデス山脈より東は低地となり、セルバと呼ばれる熱帯雨林地帯になります。ここに降った雨は、下流でアマゾン川と合流し遠く大西洋まで流れています。なお、セルバで最大の都市であるイキトスは、人口40万人以上の街ですが、今のところ、熱帯雨林に阻まれてリマをはじめ周りの街と道が繋がっておらず（空路か河川交通のみ）、「陸路では行けない世界最大の町」と言われています。ブラジルの河口から3700km遡った場所ですが、川幅は数キロに達し、大型船が行き交っています。このような地理



図1. ペルーの地図



的な違いは、そこに住む人たちの生活や文化の違いも生んでおり、ペルーの魅力の一つである多様性の背景になっています。

人口構成は先住民45%、欧州系と先住民の混血37%、欧州系15%、その他に日系人を含めたアジア系などが3%です。憲法上宗教の自由は保障されていますが、国民の大多数はカトリック教徒で、憲法上もカトリックは国家の保護を受けています。言葉はほとんどの地域でスペイン語が話されています。

また、ペルーは、鉱物資源、水産資源、農産物に恵まれており、それらの輸出が盛んです。これまでに日本を含む17の国・地域との間に経済連携協定（EPA）等の通商枠組みを結び、TPP協定交渉へも参加するなど自由・開放的な対外経済政策を標榜し積極的な施策を展開しています。昔は極端に混乱していた時代もありましたが、現在は1990年代に採られた自由主義的マクロ経済路線が広く定着して経済は安定しており、中南米地域でも有数の経済成長率（最近10か年の平均年率は6.5%、2013年は5.02%）を記録しています。近年の顕著な成長を反映して、中間層が増加傾向にあり、内需も旺盛です。1人当たりGNIは6,060ドル（12年：世銀）に達しており、中間層の増大とともに、リマを中心に日本と遜色のない規模の新しいショッピングセンターが次々と出現しています。ただし、日本のように国全体が平均的に発展しているわけではありません。リマと地方都市やリマの中でも都心と郊外の間には、とても大きくて露骨な格差があり、道路の舗装はもちろんのこと、水道や電気が通じていない家もあるなど、同じ国と思えないくらいです。



図2. リマのショッピングセンター



図3. リマの郊外

ペルーの楽しみの一つとして御紹介したいのが、食事です。ペルーが原産地であるトマト、ジャガイモだけでなく、豊かな漁場から取れる魚介や太陽の降り注ぐ農地で栽培される農産物によって作られるペルー料理は、日本人の口にもよく合い、出張者にも喜ばれています。特に、白身魚をレモンなどで締めて作られるセビッチェは絶品です。リマにはレストランが無数にあり、値段も安く、大体的場合はおいしいものが出てきます。

さて、ペルーがどのような国か、少しでもお分かりいただけますでしょうか。ここからは、ペルーの情報通信事情を御紹介したいと思います。



図4. ペルー料理 セビッチェ



図5. ペルー料理 ロモ・サルタード

2. 放送

ペルーでもテレビ、ラジオは人気があり、広く一般的に普及しています。ペルー統計情報院（INEI）によれば2012年のテレビの世帯普及率は81.5%（リマ96.7%、地方75.7%）、ラジオの世帯普及率は81.1%（リマ83.0%、地方80.3%）となっています。

日本の総務省に相当し、当地で放送行政を所管しているのは運輸通信省（Ministerio de Transportes y Comunicaciones）です。放送事業の基本法体系として、「2004年ラジオ・テレビ法」があり、その下に免許条件等を定めた「ラジオ・テレビ法の一般規則」が定められています。現在リマでは20弱の放送局がテレビ放送を行っており、ラジオ局は文字どおり無数にあります。

ペルーは、2009年4月に、南米ではブラジルに引き続き2番目に地上デジタル放送日本方式（ISDB-T）を採用しました。そして、翌2010年3月には日本の支援（専門家派遣、国営放送（IRTP）への地デジ設備の無償供与等）もあり、リマ首都圏において地上デジタル放送が開始されました。日本からはその後も、国営放送へのHD中継車、HDカメラの中古機材の無償供与等の支援が行われています。



図7. リマ首都圏で地デジを開始している放送局

ペルーにおける地デジの導入は、2010年3月にMTCより公表された地デジマスタープランに基づき、全国を4地域に分け、段階的に進められています。例えば、リマ首都圏では、デジタル放送開始期限は、今年（2014年）の第2四半期までとなっており、さらにアナログ放送は、2020年第4四半期までに終了することになっています。

現在、リマ首都圏では、前述の国営放送を含め、8局が地デジ放送を開始しており、また地方都市のクスコにおいても2局が放送を開始しているほか、他の都市でも放送開始に向けた準備が進められています。

ただし、技術・資金力のある大手のネットワーク放送局（全国に系列ネットワークを有する放送局（国営放送、大手民放））とローカル放送局の間には対応力の差もあり、第一地域のリマ首都圏においてもデジタル放送開始の最終期限が本年第2四半期末に迫る中、全ての局が期限までに地デジを開始できるかどうか注目されます。

また、ペルーは日本と同じ環太平洋造山帯に位置する地震国で、周期的に大きな地震が起きているほか、津波による大きな被害も起きています。さらにエル・ニーニョなどの異常気象による洪水等も頻繁に起きています。地デジ日本方式の特徴として、災害時の情報伝達に役立つ緊急警報放送（EWBS）や、ワンセグ放送がありますが、日本方式を採用したペルーにおいても、きっと役立つことでしょう。現在、日本政府はペルーの地震・津波防災能力の向上を目的として、地デジのEWBSを活用した予警報システム等を整備する防災・災害復興支援無償「広域防災システム整備計画」を

	対象地区	周波数プラン 公示の最終期限	デジタル放送 開始の最終期限	アナログ放送 終了の最終期限
01地域	リマ、カヤオ	2010年 第2四半期	2014年 第2四半期	2020年 第4四半期
02地域	アレキバ、クスコ、トルヒーヨ、 チクラヨ、ピウラ、ワンカヨ	2011年 第1四半期	2016年 第3四半期	2022年 第4四半期
03地域	アヤクチヨ、チンボテ、イカ、 イキトス、フリアカ、プカルバ、 プノ、タクナ	2011年 第4四半期	2018年 第4四半期	2024年 第4四半期
04地域	01、02、03で指定された 以外の対象場所	2013年 第1四半期	2024年 第1四半期	無期限

図6. 地デジマスタープラン概要



図8. 海に突き出た丘の上に放送アンテナが林立（リマ）

進めています。当該計画の一部として、今後、津波や土砂災害の可能性のある全国8か所のパイロットサイトに日本の地デジ送信機等が設置されEWBS信号の送出が可能になる予定であり、活用が期待されます。

なお、ペルーにおける地デジの普及に関しては、JICA専門家（ペルー地上デジタル放送普及支援アドバイザー）として2009年9月から2012年9月までMTC及び国営放送（IRTP）に派遣されていた阪口安司氏及びその後任として2012年10月よりペルーに派遣されている廣瀬克昌氏（共にNHKより派遣）が大きな貢献をされています。

また、ペルーでは、ケーブルテレビも普及しています。ケーブルテレビの普及率としては、民間調査を含め各種数値がありますが、ペルー統計情報院（INEI）によればリマ首都圏の世帯普及率は55.2%（2012年）となっています。Movistar（モビスター）とClaro（クラロ）が二大勢力です。どちらも通信会社が提供しているサービスであり、インターネットや携帯電話、固定電話と組み合わせたプランも提供されています。料金は、例えば、インターネット（ADSL（8Mbps）＋CATV（HD入り）＋固定電話で、ひと月約9800円（269ソル、1ソル≒36.5円、2014年2月現在）です。もちろんサービスの内容に応じてもっと安いプランも存在します。また、ペルーの地デジやNHKワールドプレミアムも視聴可能です。さらに、DirecTV（ディレクティービー）が衛星放送による有料放送サービスを提供しています。

当地の家電量販店等のテレビ売場を見ると、サムソン、LGなどの韓国メーカーが圧倒的に強く、抜群の知名度と存在感を放っています。一方、日本メーカーは劣勢で売り場面積が日に日に小さくなっている印象があり、復権を期待したいところです。お店に並んでいるのは、薄型の液晶テレビで、

地デジチューナーも搭載されています。なお、リマではワンセグ放送も行われていますが、今のところペルーではワンセグ搭載端末がほとんど販売されていません。今年はワールドカップがありますが、ペルーでも民放のATVが放映権を持っており、地デジ（ワンセグも）で放送されます。端末があれば視聴者も増えると思うところ、残念です。

3. 固定電話・携帯電話

固定電話の世帯普及率は、ペルー統計情報院（INEI）の2012年のデータによれば、リマ首都圏で54.8%、それ以外では18.3%です。また、コスタ（44.0%）、シエラ（11.8%）、セルバ（14.0%）と人口密度が低く、地理的にも厳しい場所での普及率が低くなっています。

一方、携帯電話の世帯普及率は、リマ首都圏で88.8%、それ以外で75.8%であり、また地域的にもコスタ（86.7%）、シエラ（72.0%）、セルバ（70.5%）と、それほど大きな違いはありません。スマートフォンも広く普及しています。今年からは、一部地域で4G（LTE）サービスも始まりました。

当地の主な電気通信事業者は次の3社です。なお、ペルーでは電気通信分野における外資規制はありません。

- ・テレフォニカ・ペルー（Telefónica del Peru）：旧国営事業者の合併により設立された国内最大手の総合通信事業者でスペイン系。固定電話のほか、携帯電話、ケーブルテレビ、インターネットサービスも提供。携帯電話のシェアは52.5%（2011年末）。
- ・クラロ（Claro Peru）：メキシコの移動通信事業アメリカ・モビルの完全子会社で、国内第2位の事業者。テレフォニカと同様に固定電話のほか、携帯電話、ケーブルテレビ、インターネットサービスも提供。携帯電話のシェアは42.2%（2011年末）。
- ・ネクステル・ペルー（Nextel del Peru）：以前は米国NII Holdingsの完全子会社だったが、2013年4月にENTELへの売却合意。携帯電話、インターネットサービスを提供しているが、最近では元気がない印象。携帯電話のシェアは5.4%（2011年末）。

ペルーでは電気通信サービスの提供に当たり政府がコンセッションを出しますが、その際、政策的な条件を義務付けることが多くなっています。一例として、昨年（2013年）1月にテレフォニカと運輸通信省との間で合意されたコンセッション契約の内容を挙げますと「リマ首都圏（800MHz帯及び



1900MHz帯)並びに地方部(800MHz帯)の携帯電話事業のコンセッションの更新契約で、期間は2031年までの18年10ヶ月。[社会的料金]: 貧困対策などの社会プログラムの受益者や地方の教師、医者、警察官等の公的サービスの従事者に対する割安な料金プラン導入、[携帯電話のサービス提供エリアの拡充]: 国内の住民400人以上の全ての集落で携帯電話サービスを提供する、[インターネットの無料提供]: 貧困地域の国家機関へインターネットサービス(計661地区の880か所)を無料で提供、の義務が課せられる。」という内容になっており、かかる負担は約11億8400万ドルと見積もられています。また、履行状況については、電気通信民間投資監督庁(OSIPTEL)が監視することになります。

4. インターネット

インターネットの世帯普及率はリマ首都圏で38.7%、その他の地域で12%(数値はいずれも2012年、ペルー統計情報院(INEI))。テレフォニカがADSL等によるブロードバンドサービスを提供しており、高い市場シェアを占めています。競合事業者として、クラロも同様のサービスを提供しています。また、OLOなどのブランドによるWiMAXサービスも提供されています。事業者が少ないためか、回線速度や料金は、日本よりも遅くて高めで、競争の重要性を認識させられます。政府は、情報通信格差是正のため、地方都市への光ファイバー敷設プロジェクトを進めています。

5. 郵便

ペルー郵政公社(SERPOST)が郵便サービスを提供しています。昔は、運輸通信省自身が郵便事業を行っていましたが、郵便事業に競争原理を導入することになり、1994年に、郵政事業部門が切り離されSERPOSTとなりました。青色の局舎とSERPOSTのロゴが目印です。郵便局はリマ市内



図9. 郵便局の外観

には多数あり、また、地方の小さい街でも結構見掛けます。はがきや小包だけでなくEMSも普通に取り扱いっており、日本まで1週間程度で届きます。私もたまに日本から物を送ってもらったりしていますが、遅れて届いたことはあれ、まだなくなったことはありません。郵便事業はコンセッションにより実施されており、外国資本にも開放されています。また、大都市ではFedExやDHL、TNT expressなどの民間輸送会社もよく見掛けます。

6. 最後に

ペルーには、素晴らしい遺跡が無数に存在し、また、ナスカの地上絵、リマやアレキパの都市の風景、熱帯雨林地帯やアンデスの山岳地域の自然など、12のユネスコ世界遺産があります。長い歴史があり、気候や文化も多種多様で、とても奥が深い国と言えます。貧富の差も大きく問題も多々ありますが、高成長を維持し、若年層が多く活気があり、10年、20年後にどのような成長を遂げているか楽しみな国です。百聞は一見にしかずと言いますが、機会があれば是非当地にお越しいただき、ペルーを体感していただければ幸いです。